

もも・ネクタリン特報 ⑦

令和6年7月2日
JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

6月下旬の散布薬剤について
6/17 配布の特報No.⑥をご確認ください。



【もも】 第9回 薬剤散布

散布時期	7月中旬 目安：7/10～7/15頃	散布日	月	日
散布薬剤	水	100ℓ当たり	散布量	ℓ
	展着剤（ハイテンパワー）	10ml		
	ダニコングフロアブル	50ml（前日、1回）		
	オンリーワンフロアブル	50ml（前日、3回）		
	エクシレルSE	20ml（前日、3回）		
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病 シンクイムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類、ケムシ類、ハダニ類			
散布量	10a当たり：500ℓ			
注意事項	① 有袋品種は、除袋後に散布する。			

【ネクタリン】 第9回 薬剤散布

散布時期	7月中旬 目安：7/10～7/15頃	散布日	月	日
散布薬剤	水	100ℓ当たり	散布量	ℓ
	展着剤（ハイテンパワー）	10ml		
	オンリーワンフロアブル	50ml（前日、3回）		
	エクシレルSE	20ml（前日、3回）		
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病 シンクイムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類			
散布量	10a当たり：500ℓ			
注意事項	① <u>ハダニ類対策</u> ダニコングフロアブルの2,000倍（前日、1回）を加用する。			

【収穫前栽培管理について】
次面をご覧ください

次回特報配布日
7月17日（予定）

収穫前栽培管理作業について

除袋 ～ 収穫までの流れ

除袋（収穫 10～14 日前）⇒収穫前最終防除⇒反射マルチ（収穫 7～10 日前）⇒収穫（葉摘みは、除袋期から反射マルチを敷くまでに適宜実施する）

◆ 除袋（収穫開始予想は、平年よりやや早くなる見込みです）

	品 種	除袋 終了目安
着色しやすい品種	白鳳・あかつき・なつっこ・川中島白鳳・川中島白桃・黄金桃など	収穫 10 日前
着色しにくい品種	山根白桃・志賀白桃・白桃・白根白桃・ゴールデンピーチ・秀峰など	収穫 10～14 日前

- ①除袋適期：果実の地色が抜け、やや緑色が残っている時期。地色の緑色が完全に抜け、果面が黄白色では遅い。
- ②果実温が低い時間帯に除袋を行うと日焼けを生じやすいため、早朝に除袋は行わない。
- ③2重袋を使用している場合は、外紙を除いて中袋を残して収穫する。
⇒成熟が早まる傾向があるため、除袋が遅れないよう注意する。除袋が遅れると、鮮やかな着色に仕上がらない。
- ④除袋後は果実に密着している葉を摘み取り、着色のムラを防ぐ。（極端な葉摘みはしないこと）
- ⑤除袋時期に入って天候不順で日照不足が続くときは、2日くらい早めに除袋する。

◆ 反射マルチ（反射マルチは白系マルチ【タイベック】【パールライトWS】等を使用する）

着色のしやすい品種＝収穫 7～10 日前	着色しにくい品種＝収穫 10～14 日前
[使用上の注意]	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 徒長枝切りや樹冠の混みあっている枝を整理し、園全体の日照条件をよくする。（暗い園は効果が少ない） 2. 事前に園内の除草や整地を行ない、地面を平らにする。 3. 反射マルチは風で飛ばないように固定する。 4. 着色が食味より先行するため、早もぎになりやすいので収穫は熟度を確認してから行なう。 	

◆ 葉摘み

※果実周辺の密着している2～3枚(多くても5～6枚程度まで)を摘む。

※葉摘み開始時期 ⇒ 有袋：除袋期前後から実施 無袋：着色始めから実施

※果実鮮度保持のため、果実温の低い時間帯に収穫する。(早朝から午前8時ごろまでが望ましい)

※収穫の際は、果頂部に指先をかけないように手のひらを果頂部にあて、指先は果梗部の近くの肩にかけて、ゆっくりと動かして採取する。

◆ かん水について

- 7日程度、雨が降らない場合は、右表を参考にかん水を行なう。
- 10a当り 1 ミリのかん水を行うには、水量 1 t が必要です。
- 保水性の低い砂質土壌や根域の浅い土壌では、1 回のかん水量を少なくし、間隔を短くする。
- 水源が少ない場合は、細根があると思われる部分に重点的にかん水する。

もも 時期別のかん水量の目安（成木）

時期	10a当り かん水量
5～8月 (成熟 10 日前まで)	20ミリ程度
成熟 10 日前～成熟期	5ミリ程度